

◎幸せな贈り物

どうされますか？ 現在の苦難が祝福ならば…

苦難は、だれにでも公平にやってきます。世の中には人間の生活を不公平にする多くの要素がありますが、苦難ぐらい公平なものはありません。これは、貧しい者、裕福な者を差別しません。これは王もしもべも差別しません。これは学がある者、ない者も差別しません。今日、苦難の中にいるとしても、明日不幸だということもありません。また今日幸せだとしても、明日、苦難がないということもありません。ところで、人々は身分と人格、地位上下を問わず、苦難の前にあまりにも簡単に崩れます。苦難の前にゆがんだこの時代、人間の最高の自画像が「自殺」です。昨日も今日も、あちこちで若者たちの自殺のニュースが聞こえてきます。はたして、人間は苦難の前でこのように弱いだけなのでしょうか。

ユダヤ教の経典注釈書であるミドラッシュ (Midrash) を見れば「ダビデ王の指輪」という文章が出てきます。ダビデ王が、ある日、宮中の細工人を呼んで話しました。「私のために美しい指輪を一つ作りなさい。指輪には私が大きい勝利をおさめて喜びを抑制できずに高慢になろうとすると、それを調節できる文が入っていないかならず、また、私が大きく絶望に陥って落胆するようになるときに、勇気と希望を与えられる文が入っていないかならない」それゆえ細工人は美しい指輪を作ったのですが、文字のために大きい苦悶に陥りました。幾日か悩んで、ソロモン王子を訪ねて行って、どんな文字を書き込まなければならぬのか助けを求めました。そのとき、ソロモン王子がこういう文を書きました。“This, too, shall pass away.” (これ、また、過ぎ去るだろう)

苦難の前でも揺れない人生の知恵、聖書はこのように語っています。「今の時のいろいろの苦しみは、将来私たちに啓示されようとしている栄光に比べれば、取るに足りないものと私は考えます。」(ローマ人への手紙 8:18)「私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。信仰がためされると忍耐が生じるということ、あなたがたは知っているからです。その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。」(ヤコブの手紙 1:2~4)「そればかりではなく、患難さえも喜んでいきます。それは、患難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。」(ローマ人への手紙 5:3~4) みなさんは、このみことばをどう思いますか。

苦難の理由と解答を分かれば、苦難は祝福の機会になります。幸せでなければならぬ人が、幸せを見つけることができなくて苦難の中にいる理由を、聖書は簡単に説明しています。それは神様を離れているからです。根こそぎ抜かれた木が生きることができないよ

うに、水を離れた魚が生きることができないように、神様を離れた人間は幸せになれないと聖書は語っています。なぜ神様を離れるようになったのですか。神様の約束に聞き従わず（不従順）、神様を知らなくなり、その結果、罪と苦しみの中に陥るようになりました。精神的な苦痛、生きがいやバランスがない生活、肉体の病気に苦しめられるようになったのですが、分かってみれば、すべて神様を離れた霊的な問題から始まったのです。いつからこの不幸が始まったのか聖書は知らせています。人類が始まったアダムとエバの時代から始まりました。彼らがサタンの誘惑に負けて、神様との約束である善悪の知識の木の実から取って食べ、神様を離れるようになったのでした。このときから、人間の苦しみと問題は始まりました。この不幸はいつまで続くのでしょうか。この結果で訪ねてきた人間の不幸は、今でも続いていて、ますます増加しています。むしろ解決しようとすればするほど、この世には人間が解決できない不幸のニュースがさらに増していつています。それでは、なぜこういう不幸がなくなるのでしょうか。不幸をもたらす者がいるからです。聖書は、その名前について確かに明らかにしています。サタンは敵対する者であり、神様の働きを妨害する存在で、悪魔は神様と人間の間を分離させて神様を知らなくさせることをします。数多くの悪霊（惑わす霊）と汚れた霊を働かせながら人間を倒して、あらゆる汚いことをして不幸の中に陥るようになっています。彼らは天で神様に敵対して墮落した御使いで、空中に追い出されて地球に出現して人間をほろびるようにさせるのです。結局、この存在は、さばきの日に地獄に行くようになっています。このような悪の勢力があるから、人間の不幸の問題は人間自身では解決できないのです。神様を知らなければどうなるのでしょうか。自分も知らない間に一生涯悪魔の子どもになって、理性で理解できず、原因も分からない苦しみと霊的問題に苦しめられるようになります。夜通し楽しむのに、心が何となく寂しくて安息がない理由は为什么呢。神様を離れているからです。人々が幸せを求めて、酒、麻薬、占い、シャーマニズム、お祓いを求めてさまよいます。しかし、世の中で得る平安は少しの間だけです。快樂は瞬間的な満足であって、まことの幸せではありません。その後には必ずむなしさとのろい、さらに大きな不幸が

ついてくるようになっていきます。結局、この世を離れる日、地獄に行くようになります。この問題は、どうしたら解決できるのでしょうか。ここから永遠に解放される道があります。罪とサタンに捕われた人間は、いくら努力しても抜け出すことができません。それで、神様はイエス・キリストをこの世に送って、人間が解決できない根本的な問題を解決して、救いの道を開いてくださいました。この世に來られたイエス・キリストは、人間の代わりに十字架に死んで、復活されることによって、人間の罪と運命、のろいと災いの問題をすべて解決してくださいました。（マルコの福音書 10:45、ローマ人への手紙 8:2）信じる者ごとに永遠にともにおいてくださる神様の子どもになる道を開いてくださいました。（ヨハネの福音書 14:6、ヨハネの福音書 1:12）まことの王として來られて、サタンの権威を打ちこわして、その手から解放される道になってくださいました。（ヨハネの手紙第一 3:8、ヘブル人への手紙 2:14~15）それで、聖書はイエス様を「キリスト」だと語っています。人間が絶対に解決できない根本問題を完全に解決された方だということです。だれでもこのイエス・キリストを自分の救い主と信じて受け入れれば、神様の子どもになって、運命と生年月日による運勢から抜け出すようになります。このイエス様を私のキリストとして、私の主人として信じて受け入れるとき、なんとかして抜け出したかった運命が変わるようになり、世の中のなにによっても得ることができなかつたまことの幸せが始まるのです。これがまさに神様が私たちに約束された苦難を越えるまことの幸せの道です。今でもあなたに向かった神様の心はこのようです。「主があなたを祝福し、あなたを守られますように。主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。」（民数記 6:24~26）「わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」（ヨハネの福音書 16:33）

まことの人生のプロは、苦難にあって準備する人でなく、ふだんの時に苦難を準備することを知っている人です。今日、私の人生の苦難を新しい祝福の機会にする生活の中にみなさんを招待します。

「主イエスを信じれば救われます。あなたは大切な人です」

十戒の奥義

きびしい世の中のために「笑いの十戒」というものを聞いたことはありませんか。

①大きく笑いなさい。大きく笑うことは最高の運動法であり、毎日1分間笑えば、8日さらに長く生きる。②無理にでも笑いなさい。病気が怖がって逃げる。③起きたらすぐに笑いなさい。朝いちばんに笑う笑いが精力剤の中の精力剤だ。④時間を定めておいて笑いなさい。病院とは永遠にバイバイ bye bye だ。⑤心から笑いなさい。顔の表情より心の表情がさらに重要だ。⑥楽しいことを考えながら笑いなさい。楽しい笑いは楽しいことを創造する。⑦いっしょに笑いなさい。一人で笑うより33倍以上効果がある。⑧苦しいとき、さらに笑いなさい。まことの笑いは苦しいときに笑うことだ。⑨一度笑って、また笑いなさい。笑わないで一日を送った人は、その日を浪費したのと同じだ。⑩夢をかなえたときを想像しながら笑いなさい。夢と笑いは一つの家に住む。

旧約聖書が言う律法は「しなさい」という命令248個と「するな」という命令365個を合わせて、なんと613個に達します。613個にもなる膨大な律法を、たったの10個で要約したのが十戒です。十戒は大きく二つの部分に分けられます。第1戒から第4戒までは神様と関係する戒めです。第5戒から第10戒までは隣と関係する戒めです。したがって、旧約のすべての律法と十戒を二つに要約すれば、神様への愛と隣人への愛です。イエス様は律法の核心をこのように要約されました。「そこで、イエスは彼に言われた。『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』これがたいせつな第一の戒めです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。律法全体と預言者とが、この二つの戒めにかかっているのです。」(マタイ22:37~40) 律法の核心は、まさに神様への愛と隣人への愛です。そして、十戒にはすばらしい霊的原理があるのですが、それが1戒から4戒までです。そして、道徳的原理もあるのですが、それが5戒から10戒までです。「ほかの神々があってはならない。どんな形をも造って拝んではならない!」なぜでしょうか。偶像崇拜する者は3、4代がほろびるようになります。それがまさにサタンと悪霊の働きです。「あなたの神、主の御名を、みだりに唱えてはならない。」これは主の御名をでたらめに呼んではならないということです。「安息日を聖なる日として守りなさい」これは礼拝に失敗するなという意味です。それとともに、「両親を敬いなさい。人を殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。嘘をついてはならない。貪欲を抱いてはならない」と言われました。人生の荒野を通り過ぎる中に、このようなことが行われるので、してはならないということです。重要なのは、これが出エジプトの時の話だと思ったところ21世紀の問題で、世界的な問題で、次世代的な問題で、霊的問題につながるということです。結局、神様が戒めをくださったのは、どこでも記憶して「神様を愛して、隣人を愛するようにすることです」

「こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。

その中で一番すぐれているのは愛です。」(1コリント13:13)

神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してくださったキリストであると信じます。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どもの 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



車線は、生命線

その日一日のスケジュールを終えて乗用車に乗って家に戻るのに、町の交差点の信号の前で、トラックが運転席の後席に追突した。急ぐ事があったのか、そうでなければ、どんな理由だったか前方不注意で、その運転手は信号を待つ私の車に突込んだ。幸いケガはなかったが、後のドアは容赦なくゆがんだ。まもなくやってきた警察と保険会社で、人身事故ではない事故として処理された。ただし、白線を越えて運転したトラックの過失が認められて、相手側がすべての責任を負って自動車の修理費を支払うことになった。ひやっとした事故の瞬間だったが、道路にも秩序と法が存在することを確認した。

すべてのことには自由があるが、同じように法が存在する。法は不便なわけだが、事実、その法が自由を保障してくれる。もし京釜（キョンブ）高速道路に車線が描かれていないならば、はじめは自由に思うかもしれないが、大小の多くの車もつれて混乱するようになって、車両の大きさや自動車の速度によって多くの混乱が起きるだろう。それで、自動車を通る車道を区分する車線が引かれていて、車両が円滑に運行するように案内されている。今は韓国の人口二人当たり1台で自動車が多くなったのに、車線と車道を区分できなかつたり、車線の明らかな効用を知らなくて運転妨害を起こしたり、事故を誘発することがたびたび現れたりもする。車線は道に引かれている白色、黄色、点線および実線のことを言い、車道は車線の間で車が通う空間を言う。路上の車線をよく調べれば、点線と実線、そして二行の実線を見ることができる。ここで点線と実線の差は線を「越えてもいいのか、越えてはいけないか」の差だ。点線は越えてもかまわないが、実線は越えてはいけないという表示だ。二行の実線は、中央線にだけある

のだが、これは「絶対に越えてはいけない」という警告の意味で、車線はすなわちいのちと連結する線なので重要だ。黄色の実線は絶対に越えてはいけない線として追い越しが禁止された中央線や駐停車禁止線だ。黄色の点線は追い越しが許された中央線や停車が可能な地域だ。白色の実線は車線変更が禁止された線で、白色の点線は車線変更が可能な線だ。私の車に追突した方は、白色の実線を越えたので事故責任をすべて負うことになったのだ。もう少し失敗すれば、大きな危険になるところだったので、地面に描かれた線でも、それは運転手が守らなければならない法である。その法が遵守されるとき、車両の流れが円滑で自由な日常が維持される。当然、人生の道でも、こういう原理は同じように維持される。人ごとに自分の道がある。行かなければならない一生の道において自分の車道を行くように安全運転をする。しかし、ある日、本人が耐えがたい車道変更をして、車線を越えるようになることが発生する。自分の失敗でも、運命のいたずらであろうと、耐えがたいことが起こるようになる。越えてもかまわないささいな点線の場合には理解の次元になるが、越えてはいけない実線を越えて事故で処理される霊的問題が現れる時は、その困難をどうにもできないのだ。したがって、車線は生命線と同じだ。法は守れる自由があるときに守ってこそ、安全といのちが維持される。したがって、いのちの法に従って与えられた車線を維持しなければならない。自由にしようと、思いどおりに車線を越えれば、滅びの法に達する車道に入るようになる。いのちを持った者だけがいのちの車道を行くことができる。滅亡の車道にしばしば進入する問題の人生は、ただ福音だけが正しい方向を定めるようにさせる。あなたのいのちは何より大切で尊いものだから、いのちの車線を守るように願う。

チョン・ヒョングク（福音コラムニスト）

* 相談したい方はこちらまでどうぞ